







## 第46期後期 最高位戦プロテスト



### 論述問題（配点 100 点 / 50 分）

- ・ 解答用紙に名前を書くこと
- ・ ルールは最高位戦ルールとする。
- ・ ツモ切りには色がついてある。（ は手出し  はツモ切り）
- ・ 全体牌図では便宜上、
  - ・ 鳴かれた牌は赤枠をつけ捨て牌に残している
  - ・ ポンにより飛ばされた巡は捨て牌の欄を空欄としている

- ・ 解答の表記は下記の通りとする。

 ~  → 一 ~ 九

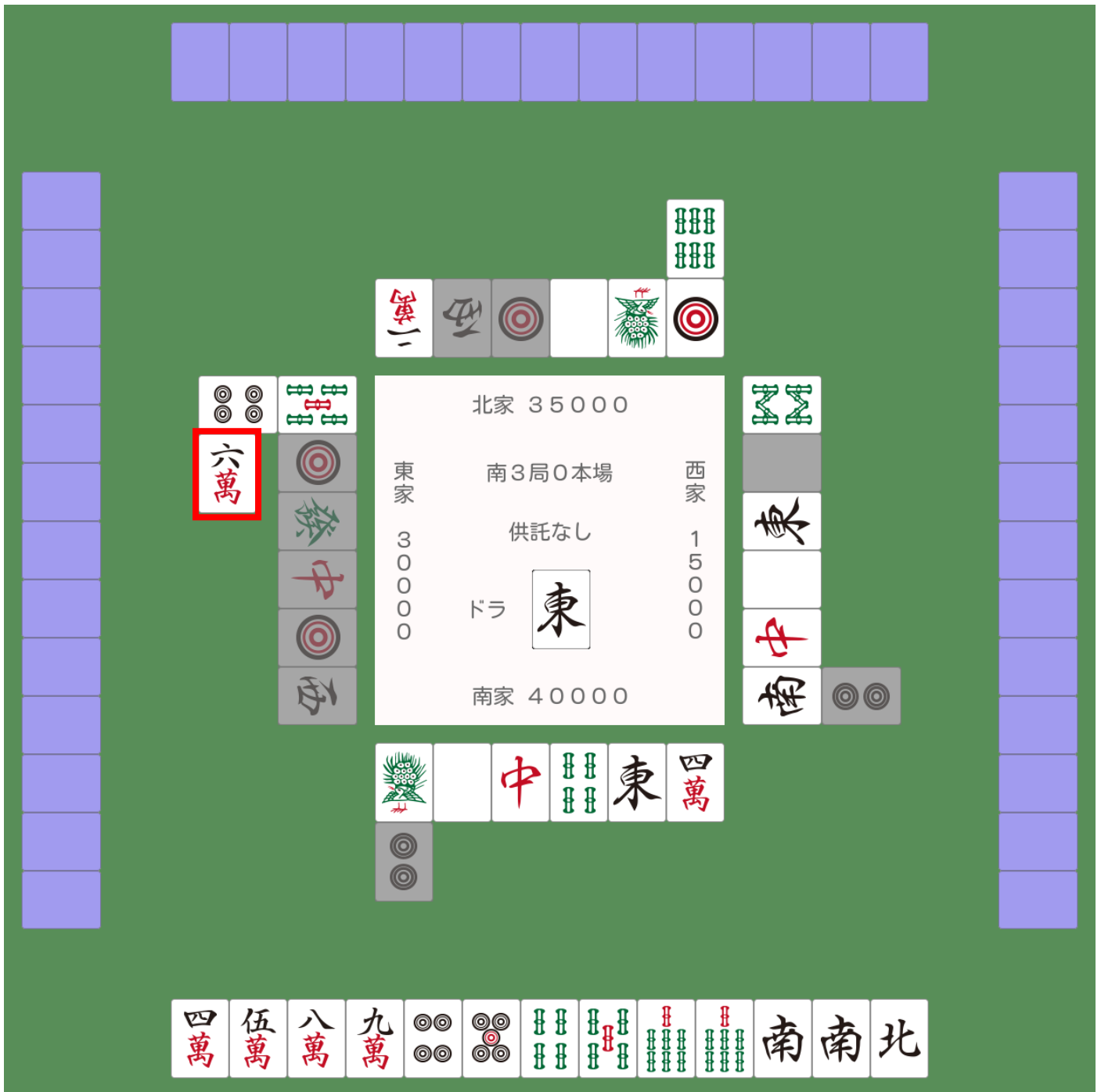
 ~  → ① ~ ⑨



 ~  → 1 ~ 9

        → 東南西北白發中

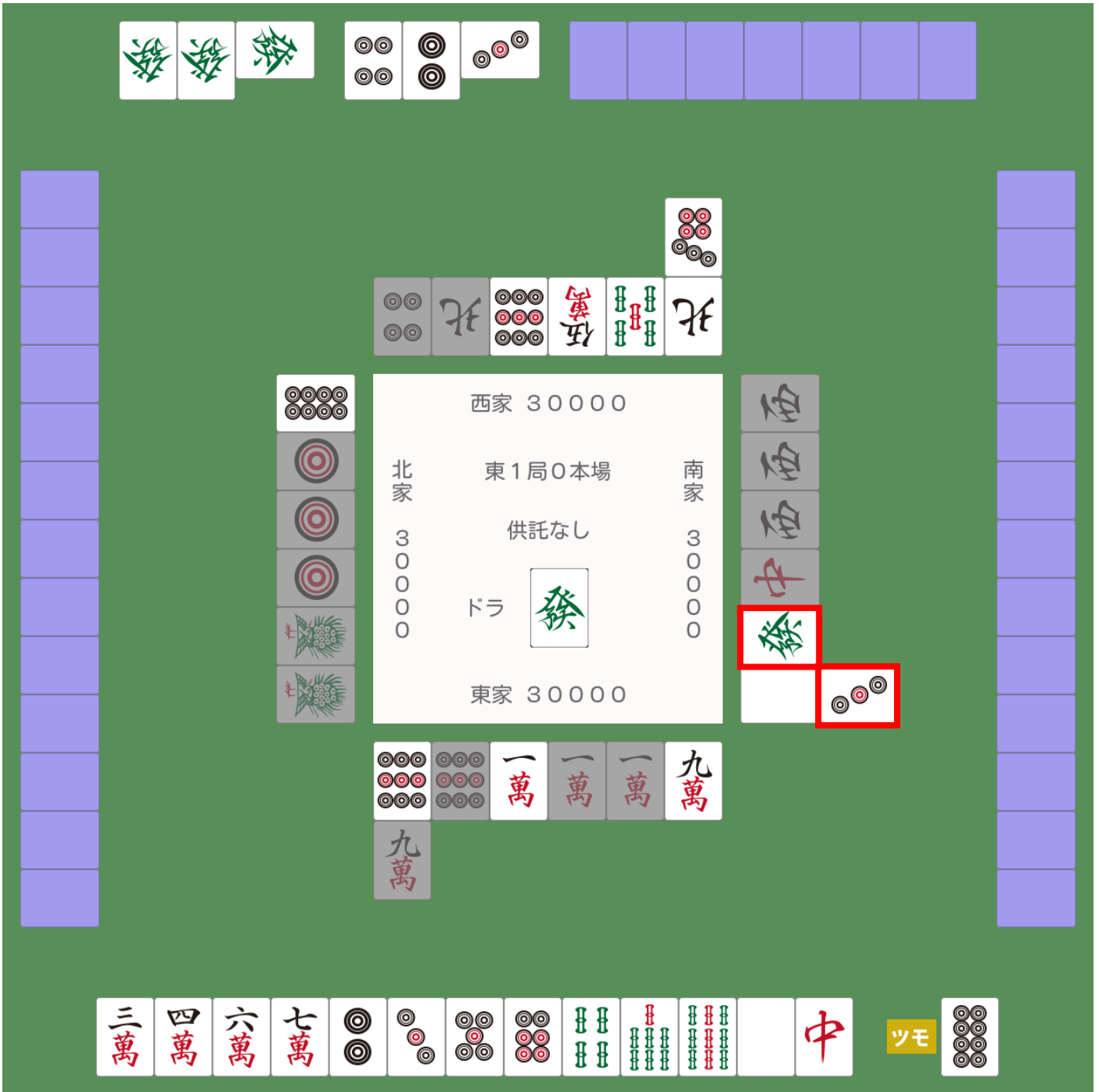
- ・ 解答はなるべく理由を含めて詳細に書くこと。
- ・ 拾うべき要素を拾えているかどうかという点を採点基準としている。

問題 1 (配点 50 点)



南家は上記の手牌から東家のリーチ宣言牌  をチーして打  とした。  
 南家に思考を質問した回答を予想し空欄を埋めよ。

## 問題 2 (配点 50 点)



西家は2巡目にドラの發をポンして打、7巡目にをチーして打としている。

西家は聴牌だと仮定した上で、“西家のピンズの形”ごとに東家の各”手牌およびツモ牌”14牌から放銃する可能性がある牌を整理した上で安全度の高い牌を導け。

ただし西家はイーシャンテン時には下記の優先順位で打牌選択を行うものとする

1. 受け入れ枚数を最大化する
2. 受け入れ枚数が同じであれば待ち枚数の多くなりやすさを最大化する
3. 上記1.2.が同じであればポンのしやすさを最大化する



※最大化する選択が複数ある場合はどちらを選ぶ可能性もある

また聴牌は必ず取るものとするが、必ずしも待ち枚数を最大化するとは限らない。

解答用紙

受験番号	
氏名	

問題 1 (配点 50 点)

南家「まず、鳴こうが鳴くまいが  や  の中張牌の現物を切ろうと思っていました。なぜなら

からです。その上で鳴いた場合のデメリットとメリットを考えました。まずデメリットの1つ目です。鳴くことによって

ので手詰まりを起こす可能性は高まります。とはいえ、

ことからこのデメリットは比較的小さいと言えるでしょう。デメリットの2つ目は親のツモ番が増える可能性が高まることです。現状の海底は

で鳴くことによって

になります。親のツモ番が増えるにはさらにチーが

入った場合ですが、

という理由によりその可能性は少なく見積もっても良いでしょう。

ですのでデメリット2つ目の親のツモ番が増える可能性も比較的小さいと言えます。これらに対してメリットが上回るかどうかですが、メリットの1つ目は一発ツモによる打点上昇を防げることです。一回のツモに対してしか意味がありませんが、リーチの手の中にドラが組み込まれていない可能性が高く着順取りの上でツモられた時の一翻の価値が大きいので通常時より一発消しのメリットが大きい局面だと言えます。ここまででデメリットデメリットが同じくらいかなと感じていましたが、次にあげる他の鳴くメリットを考慮して結局鳴きました。

」

## 問題 2 (配点 50 点)

書き方例

A ②③④

放銃する可能性がある牌：三四六七

理由などをフリー記述

B ③④

放銃する可能性がある牌：②⑤

理由などをフリー記述

解答欄

